



佐伯 欣子 議員
(清流会・かさいを育む会)

校内フリースクール『あおば』の重要性



問 設置の目的や方向性は。

答 学校や児童生徒の思いを受けて、登校できない状況を可能な限り取り除き、自分のペースで登校できる場所として設置しました。別室登校と、教育センターのふれあいホームの中間的な存在と考えています。不登校支援の経験のある支援員が常駐し、自主学習の支援や相談などを行います。

問 開校までの経緯について。

答 中学校校長会で協議した後、不登校対策委員会を定期的

に開催して支援の在り方を検討しました。先進自治体を視察するとともに不登校生を対象にアンケートを実施し、これらを基に、9月4日北条中学校内に開設しました。駐車場から直接出入りできる場所に部屋を設置し、個別スペースや共有スペースなどを設けています。8月には不登校生や保護者に案内し、8月25日に市内教職員を対象に見学会を開催しました。8月28、29日に生徒、保護者対象の個別見学会、相談会を実施しています。

問 通室までの流れやフリースクールの現状について。

答 通室に当たっては、本人や保護者が教室を見学して説明を受けます。体験入室の機会も設け、それらを通して本人が希望すれば正式入室の申込みとなります。生徒たちは自分で決めた日

程で穏やかに過ごし、給食を食べることができています。ふれあいホームとの併用を希望する生徒もあります。見学希望の連絡も入っており、今後、通室する不登校生の増加も期待しています。

問 今後の展開について。

答 通室生が話し合い、アイデアを出し合って教室環境をつくり上げる中で、1人でも多くの不登校生に選ばれる場所を目指したいと考えます。今年度中に2つ目の校内フリースクールを設置する予定です。また、校内フリースクールの設置により、ふれあいホームの運営を見直し、小学校高学年の不登校生の入室も相談可能としています。小学生の不登校生の支援場所の選択肢を増やすことにもつながっています。



高見 博道 議員
(令和新風加西)

大阪・関西万博について



問 55年前の1970年、昭和45年に、人類の進歩と調和をテーマに、77の国と地域が参加して日本万国博覧会、大阪万博が開催されました。その後も何度か日本で開催されています。今回の大阪・関西万博の現時点の状況はどのようになっていますか。

答 2025年日本国際博覧会、大阪・関西万博は、2025年4月13日から10月13日までの184日間、大阪市の夢洲で開催される予定となっています。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイ

ン」とされていますが、展示内容の詳細はまだ発表されていません。各国政府、国際機関が企画するパビリオンや、8人のテーマプロデューサーが企画するパビリオンなどにおける展示、また、様々な催事を通じてSDGs達成への貢献や日本の国家戦略、Society5.0の実現を目指しているところです。現在、海外のパビリオン建設に遅れが生じている等の報道がありますが、政府が主導して準備を加速させていく考えが示されています。

問 加西市としての取組の状況は。

答 万博は加西市の魅力の世界に発信する貴重な機会と捉え、会場内外で積極的にPRを行っていきたく考えています。具体的には、兵庫県が実施す

る市町の日、リージョナルデーにおいて、万博会場内の関西パビリオン兵庫県ゾーンや、兵庫県立美術館でVRを活用した気球搭乗体験、平和ツーリズムを促進する動画の上映などを行う予定です。また、兵庫県が進める兵庫フィールドパビリオンのSDGs体験型地域プログラムに、北条鉄道の気動車運転体験をはじめ、鶴野フィールドミュージアムガイドツアーや日本酒をテーマとした体験プログラムが認定されています。

兵庫県とも連携し、万博来場者を加西市に呼び込みたいと考えています。

■その他の質問項目

- ・インボイス制度について
- ・マイナンバーカードとマイナポイントについて
- ・加西インター産業団地について